

学会報告

10th East Asia Joint Symposium on Plasma and Electrostatic Technologies for Environmental Application (EAPETEA-10)

熊本大学 王 斗艶

2025年12月3日から5日にかけて、国際シンポジウム 10th East Asia Joint Symposium on Plasma and Electrostatic Technologies for Environmental Application (EAPETEA-10) が日本にて開催された。本会議は、環境応用分野におけるプラズマ技術および静電技術の進展に焦点を当て、主として東アジア地域を中心とする各国の研究者・技術者・産業関係者が一堂に会し、当該分野の最先端の開発動向について議論するとともに、研究成果の共有や革新的なアプローチを探求するためのプラットフォームを構築することを目的としている。今回の日本開催にあたり、現地実行委員長を産業技術総合研究所の金賢夏先生、副実行委員長を東京科学大学の野崎智洋先生が務められ、静電気学会には共同主催として多大なるご支援を賜わった。本シンポジウムは、2012年に開催された Joint Symposium of Plasma Groups in Japan and Korea を起源とし、その後は日韓両国により毎年交互に開催されてきた。さらに、中国・大連理工大学の李杰先生のご提案により、第5回からは中国が加わり、現在の体制へと発展している。

開催地は「くまもと県民交流館パレア」であり、参加者総数は91名であった。国別内訳は、日本54名、韓国12名、中国24名（うち22名はオンライン参加）、米国1名であり、このうち学生参加者は35名であった。当初は対面開催を予定していたが、日本への渡航自粛要請の影響により来日が困難となった中国側参加者に配慮し、開催直前に Zoom によるオンライン参加を可能とするハイブリッド形式へ変更した。準備期間が1週間弱という限られた状況であったにもかかわらず、大きなトラブルなく会議を実施できたのは、静電気学会事務局ならびに現地実行委員の献身的なご尽力の賜物であり、ここに深く感謝申し上げたい。

EAPETEA-10では、プレナリー講演1件、招待講演6件、一般口頭発表31件、ポスター発表38件の計76件の発表が行われた。主なトピックとしては、電気集塵、プラズマ

触媒、窒素固定、アンモニア生成、オゾン生成、NO_x 生成、VOC 処理、CO₂ 処理、メタン変換、水中有機汚染物質の分解、プラスチック廃棄物の分解・リサイクル、資源物の再利用、殺菌、寄生虫殺虫、水産応用、プラズマおよびパルス高電圧の農業応用、放電プラズマの物性観測、液滴・液体流の物性観測など、多岐にわたる研究成果が報告された。従来から中心であった気体・液体汚染物質処理に加え、固体廃棄物処理に関する研究が増加していたこと、また農業・水産分野への応用展開があった点が印象的である。会議最終日には、優れた研究発表を行った学生4名に対して学生表彰（口頭発表2名、ポスター発表2名）が授与され、本会議の学術レベルの高さを改めて示す結果となった。

会議2日目午後には Excursion として、熊本城のガイド付きツアー（日本語または英語）が実施された。加藤清正による築城から約400年の歴史を有する熊本城は、「武者返し」と称される石垣や、西南戦争における籠城戦で知られる難攻不落の名城である。2016年の熊本地震による被災を経て、2021年には最新技術を取り入れた耐震補強およびバリアフリー化が施された天守閣が再建され、従来以上の見応えを感じる内容であった。同日の Conference Dinner では、本会議の発足者の一人である水野彰先生より挨拶があり、今後の若手研究者に対する期待が寄せられた。会議全体を通じて、所属機関の異なる学生同士が活発に交流していたことが強く印象に残っており、分野や組織を越えた研究者間のネットワークが本会議の成功に大きく寄与したものと感じられた。

最後に、本会議のスポンサーとしてご支援いただいた株式会社島津製作所ならびに株式会社末松電子製作所に対し、ここに深く感謝の意を表したい。



EAPETEA-10 集合写真

〒860-8555 熊本県熊本市中央区黒髪2-39-1 熊本大学産業ナノマテリアル研究所

Tel: 096-342-3945

E-mail: douyan@cs.kumamoto-u.ac.jp

URL: <https://www.eapetea10th.com/home>